

[添付資料]

【撮影エピソード】

1. 背面ディスプレイの中で展開される架空の世界

撮影は11月半ば、都内のスタジオで行われました。今回の設定は、携帯電話の背面ディスプレイの中で展開される架空の世界の物語ということで、用意されたのは街中をイメージした高層ビルや建物に、信号機、横断歩道というシンプルなセットでした。信号機の点灯画面には、「FOMA F902i」のセキュリティ機能を象徴する南京錠が描かれています。また、文字情報などはCG合成のため、セットはすべて白色で統一されていました。

2. オダギリジョーの役者魂

「見られるとやばいのよ〜！」とカメラ目線で語るシーンは、微妙に言葉のアクセントやニュアンスを変えて、数パターン撮影しました。身振り手振りを交えながら、演出について納得するまで監督と意見を交わし、時には「ここはシャープに言った方がいいのでは？」と自ら提案していました。その熱い姿勢に監督、スタッフのモチベーションもますます高まり、撮影は順調に進行しました。

3. 短いセリフに大苦戦！？

CM中に挿入されるナレーションの収録では、普段から、ひとつひとつの言葉に対して高い意識を持っていることが伺われました。「富士通」という短いセリフの収録中では、微妙にニュアンスを変えて何度も同じ言葉を繰り返していると、ついには「わかんなくなってきましたね」と苦笑い。「11番目に言ったヤツが良かった」というスタッフに、「えっ、違いがわかるんですか？」とビックリ。そんな微笑ましい(?)やり取りにスタッフ一同大笑いという場面が見られました。

4. 日本に一台しかないクレーンカメラを使用

今回の撮影で大活躍したのが、横断歩道の端から端まで渡るオダギリさんの姿を、正面から捉えるために用意された特殊クレーンカメラです。重さ約2トン、ボタンひとつで上下左右に最大15メートルまで伸びるこの機材は、日本に一台しかない貴重なもの。スタッフには移動しながら焦点を合わせたり、オダギリさんの歩くスピードに合わせて伸縮速度を調整するという難しい作業が要求されましたが、そのおかげで、より奥行き感のある、立体的な風景の撮影に成功しました。

5. 実は根っからの“F”ユーザー

「FOMA F902i」のイメージキャラクターに決まった感想を、「昔から、“F(富士通)”の携帯を使っていたので親近感があります」と語っていました。最新機種「FOMA F902i」についても「シンプルですごくいい」とお気に入りの様子。また、「5年くらい前に使っていた、リモコンみたいなボタンの四角い、小さくて細長いデザイン(F501i)も復活させてほしい」とリクエストするなど、根っからの“F”ユーザーぶりを発揮していました。

6. オダギリさんから視聴者へのメッセージ

撮影はスムーズな演技と、それを引き出した監督らスタッフのチームワークのおかげで、予定よりも早く終了しました。今回の撮影について、「すごく早くて素敵な現場でした。ありがとうございました」という感想を残し、満足そうな表情で現場を後にしました。最後には視聴者の方々へ向けて、「携帯はプライバシーがたくさん詰まっているので、セキュリティ機能は必要なもの。責任を持ってプライバシーを守ってください」というコメントをいただきました。

【制作スタッフ】

- | | |
|-----------------|--------------------|
| ・ 広告代理店 | : 株式会社電通 |
| ・ 制作 | : 株式会社二番工房 |
| ・ CD | : 岡本 達也 |
| ・ Pr | : 八木 直樹 |
| ・ プランナー | : 大浦 芳久、小松 直樹、関 竹彦 |
| ・ プロデューサー | : 三浦 知之、吉田 光宏 |
| ・ プロダクションマネージャー | : 井上 聡 |
| ・ 演出 | : 中村 剛 |
| ・ 撮影 | : 内田 将二 |
| ・ 照明 | : 米井 章文 |
| ・ 美術 | : 山村 一智 |
| ・ スタイリスト | : 祐真 朋樹 |
| ・ ヘアメイク | : 佐藤 富太 |
| ・ 出演 | : オダギリジョー |